

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970400170	
法人名	医療法人 景雲会	
事業所名	グループホームあずさ	
所在地	山梨県笛吹市春日居町国府436	
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会	
所在地	甲府市北新1-2-12	
訪問調査日	平成27年11月12日(木)	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者は一人ひとりのペースでホーム内でゆったりと過ごされている。
近隣の方々との交流の場を少しずつ広げていく努力をしている。地域行事に参加して地域の方々との交流を深めている。運営推進会議を2カ月に1回開催して、助言、意見をサービスの向上に活かしている。併設病院との医療の連携を取り終末期の支援、看取りを行っている。
5段階からなるスピーチロックの自己評価表を作り、スタッフの意識付けを行っている。月1回の避難訓練、年2回夜間防災訓練、地域の防災訓練に参加し、入居者が避難出来る様スタッフが身につける努力をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、温泉街の一角にあり併設の医療法人春日井サイバーナイフ・リハビリ病院とショートステイ事業所がある。病院との医療面での連携で重度化や終末期の支援をチームで取り組む事が出来る。
理念である「スタッフが寄り添い、共にふれあい笑顔で楽しく過ごす」を全職員で作り上げ、5段階のチェック表で毎日自己評価し実践につなげている。
防災においては、毎月1回避難訓練を行い、職員は自信を持って避難誘導出来る体制にある。また、地域の訓練にも利用者と職員が参加する等住民の一員として積極的に関わっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

調査シート(自己評価および外部評価結果)

事業所名(グループホームあずさ)

自己	外部	項目	外部評価			
			ユニット名(あずさ1階)	ユニット名(あずさ2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	合同カンファレンスにて皆で話し合い理念を決める。理念を入口に掲示、職員はネームの裏に記入いつでも見て実践出来る様になっている。	合同カンファレンスにて話し合い理念を決める。理念を入口に掲示、職員はネームの裏に記入し、いつでも見て実践出来る様になっている。	新年度に向けて全職員で新しい理念「利用者様とスタッフが寄り添い共にふれあい笑顔で楽しく過ごされる」を作り、名札の裏に入れて常に確認をしている。カンファレンスで1日にあった事を話し合い、5段階のチェック表で自己判定をして理念を共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	あずさ便りを近隣に配布している。地域の行事(ドンドン焼き、祭り、防災訓練)に参加している。	あずさ便りを近隣に配布している。地域の行事(どンドン焼き、お祭り、防災訓練)に参加している。	月1回近所の家のポストに「あずさ便り」を入れ情報を伝えている。春祭りには、事業所の庭が子ども神輿の休憩所になり、利用者が子ども達におやつを渡す等の交流を図っている。夏祭りには、社協へ登録のボランティアが焼きそばを作り、利用者も一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣にあずさ便りを配布したり行事に参加し、認知症の人への理解を深めて頂いている。	近隣にあずさ便りを配布したり、地域の行事に参加して認知症の方への理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況、入居者の様子など活動報告を行い、意見、助言、要望、指導をして頂き地域行事に積極的に参加している。	ホームの状況・入居者様の様子等活動報告を行い、意見、助言、要望、指導をして頂き地域行事に積極的に参加している。	運営推進会議は2か月に1回開催している。水害、大雪等、防災についてアドバイスを受けたり、区長から地域の行事の情報を得ている。また、夕食の時間についての意見があり、時間を変更した等会議での意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、包括、高齢福祉課職員との連絡はしている。	介護保険課、地域包括、高齢福祉課職員との連絡は行っている。	市の担当者に書類の記載方法の指導を受けたり、空き部屋については、市に依頼したり、受け入れを依頼される事もあり連携を図っている。介護相談員を受け入れたり、事業所の実情を伝える等日頃から担当者との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入口がロック式になっているが、必要時解除している。スタッフは身体拘束をしないケアをこころがけている。スピーチロックに当たる言葉の一覧表を毎日自己評価して、記入している。やむおえず安全ベルト使用者には、家族の許可を貰っている。	2階エレベーター前の蛇腹の鍵を閉めているが、必要時開けている。職員は身体拘束をしないケアを心掛けている。スピーチロックに当たる言葉の一覧表を毎日自己評価し記入している。	スピーチロックについては5段階の一覧表があり、職員は毎日チェックして繰り返す事で意識を持って取り組んでいる。最近転倒後車イスになった利用者が入居して来たが、家族からの依頼でベッド柵や車イスの安全ベルトの着用を行っているので、拘束しないケアを模索中である。	家族からの依頼で入居間もない利用者の転倒防止のために、身体拘束をやむを得ずに行っているが、家族の理解を得ながらスタッフで話し合い拘束をしなくてすむ支援の工夫を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフは虐待が見過ごされない様注意をはらい防止に努めている。スピーチロックを自己評価して、カンファレンスにて話あっている。	職員は虐待が見過ごされないように注意を払い防止に努めている。スピーチロックを自己評価して、カンファレンスにて話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度について研修会に参加したり、市町村連絡協議会に参加し研修をうけている。	権利擁護制度について研修会に参加したり、市町村連絡協議会に参加し研修を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、十分な説明を行い、また家族からの不安や疑問を聞き理解、納得を得ている。解約、改定時は、家族に連絡、理解納得を得ている。	契約の際十分な説明を行い、また家族からの不安な事や疑問点を尋ね理解納得を得ている。解約改定時には、家族に連絡し理解納得を得ている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			ユニット名(あずさ1階)	ユニット名(あずさ2階)	実践状況
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、ホームからの電話時に意見、要望などを聞き、沿えるよう努力している。またご意見箱を設置し運営推進会議に参加して頂いている。	面会時やホームからの電話時に意見や要望等を聞き、それに添えるよう努力している。	家族の面会時には、利用者の状態等を話しながら、気軽に意見や要望が話せる雰囲気作りをしている。運営推進会議には、5~名の家族の出席があり、そこでの意見や要望は、日々のケアに反映するように努めている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時にスタッフに意見を聞き、反映に努めている。 それ以外でも、個々に気軽に相談している。	カンファレンス時に職員の意見を聞き、意見の反映に努めている。また個々にも気軽に相談に応じている。	月3回の会議(ユニット2回、合同で1回)で意見・要望・提案を聞いて、運営に反映させている。個人的にもいろいろな相談に応じている。利用者の食事介助については、職員間でお互いに調整し利用者の食事の流れを止めないようにした。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考えてくれていると思う。夜勤を2人体制にして頂いたり、時間外残業をつけて貰っている。	夜勤体制を1名から2名に変更してくれたり時間外残業をつけてくれたりと、考えてくれていると思う。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には全員参加、外部研修には全員が受けられる様考慮している。あずさ、ショートステイリリー共同によるキャリアパス勉強会を行いスキル向上に努めている。	法人内の研修には全員参加、外部研修については職員全員が受けられるように考慮している。ショートステイリリーと共にキャリアパス勉強会を行いスキル向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会研修に参加、他事業所に連絡を取ったりし交流を深めている。	グループホーム研修会に参加し、他事業所との交流の中で同業者の活動、取り組みを聞きサービスの質の向上に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事や不安な事に耳を傾け、本人が安心出来る様な関係作りに努めている。利用者との関わりの中で聴いた事、表情、態度などを情報として集め、関係作りに役立て安心できる様、努めている。	本人の困っている事や不安な事に耳を傾け、本人が安心出来るような関係作りに努めている。利用者様との関わりの中で感じ取ったり聞いたりしたことを情報として集め、関係作りに役立て安心できるように努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、契約時、施設の説明を行い、家族からの要望、不安、心配事を聴きまた入所後の面会時には本人の状況、状態の説明を行いながら関係作りに努めている。	入所時や契約時に施設の説明を行い共に家族からの要望・不安・心配事等を聞き、また入所後の面会時には状況状態説明を行いながら関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望、困っている事を聞き、今何が必要か考えて支援している。	本人や家族の要望と困っている事を聞き、今現在何が必要なのかを考え支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をしながら、喜怒哀楽を共に感じ暮らしを共にしていると感じて貰える関係づくりを築いている。	介護をしながら、喜怒哀楽を共に感じ暮らしを共にしていると感じて貰える関係作りを築いている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ユニット名(あずさ1階) 面会時には、本人の状況、状態を説明し、面会の少ない家族には電話や面会を増やし行事に参加して頂けるような声かけを行い、本人を支えていく関係を築いている。	ユニット名(あずさ2階) 面会時には本人の状況状態等説明し、面会の少ない家族には電話や面会を増やし行事に参加して頂けるような声かけを行い、本人を支えていく関係を築いている。	対角線
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達、近所の人の面会時にはまた来て頂ける様に声かけを行っている。美容院、スーパー、お墓参り、など家族が付き添い外出している。馴染みの関係が途切れない様支援している。	家族や友人の面会時に、また来て頂けるよう声かけを行っている。お盆や年末年始他、家族の付き添いにて外出や外泊される利用者もいる。馴染みの関係が途切れないように支援している。	年賀状や初詣、ドンドン焼き、冬至のカボチャ等、今までの生活の中で習慣化されている事は、意識的に支援の中に入れている。仲良くしていた友人が訪ねて来たり、希望者には家族に電話を取りつぐ等して継続的な交流が出来る様支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の生い立ちや性格を掴み、行事、レクを通し利用者同士の間に入り関係作りに努めてお互いに支え合える様な支援に努めている。利用者同士のトラブルがあった場合間に入りお互いの話を聴き、問題解決に努め、支援している。	利用者様の生い立ちや性格を把握し、行事やレクリエーションを通し利用者様同士の間に入り関係作りに努めて、お互いに支え合えるような支援に努めている。また利用者様同士のトラブルが無いよう常に見守り声かけを行っている。	対角線
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の必要に応じて相談や支援に努めている。	本人家族の必要に応じて、相談や支援が出来るように努めている。	対角線
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時ADL表、サマリー、紹介状、ケア・マネより情報収集、本人、家族の希望、意向の把握に努めている。	入所時にセンター方式シートを作成し、一人ひとりの思い、希望、意向の把握に努めている。	半数の利用者は、言葉で思いを伝えられる。他の利用者は、食事の残量で好き嫌いを判断する等、日常生活の中の行動や表情から思いの把握に努めている。ユニット毎の担当者がカンファレンス時に話し合い、職員間で情報を共有している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族の会話から、またサマリー、紹介状等などから馴染みの暮らし方、サービス利用の把握に努めている。	サマリー、紹介状、情報提供書等から情報を得たり、本人や家族との日頃の会話から生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。	対角線
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、心身の状態、状況、有する能力の現状把握に努めている。	一日の過ごし方、心身状態、有する能力の現状把握に努めている。	対角線
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットでカンファレンスを行い、月初めに合同カンファレンスを行い、意見、アイデアを出し合いお互いに共有し介護計画に取り入れている。	各ユニットでカンファレンスを行い、月初めの合同カンファレンスで意見やアイデアを出し合い共有し介護計画に取り入れ作成している。	介護計画に沿った支援の様子は毎日記録し、全職員が共有している。担当者が評価し、月1回のカンファレンスに提出する。カンファレンスにて全職員で意見を出し合い確認し、必要があれば計画の見直しを行っている。また、大きな変化があった時には、早急に見直し現状に即した計画を立てている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に勤務者が記録しており、必要な情報は申し送りノートに記入し、職員間で共有して実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録に勤務者が記録しており、必要な情報は申し送りノートに記入し職員間で共有して実践や介護計画の見直しに活かしている。	対角線

自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット名(あずさ1階) 本人、家族の状況やニーズに対応し訪問、移動美容室への送迎、買いたい物が有る時は付き添い買い物をしている。また急変時には付き添っている。	ユニット名(あずさ2階) 本人や家族の状況やニーズに対応し、移動美容室への送迎や必要な物の買い物を代わりに行っている。急変時に医療が必要な時には付き添いを行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支え、本人の力を発揮して、安全な暮らしが楽しめる様支援している。	一人ひとりの暮らしを支え、本人の心身の力を発揮して安全な暮らしを楽しめるよう支援している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時家族の意向を重視している。家族の希望により、かかりつけ医に受診、また併設病院外来から内服薬処方、受診したりしている。緊急時職員が付き添うが通常は家族に連絡して来て頂いている。	入所時の家族の希望を重視している。家族の希望がある場合家族対応にてかかりつけ医に受診、また緊急時は併設病院外来を受診し内服薬処方してもらうこともある。緊急の場合は職員が付き添うが、通常は家族に連絡して来て頂いている。	かかりつけ医の受診は、基本的には家族対応である。併設の病院への受診は、職員が付き添い看護師から連絡が来るので家族に連絡し情報を共有している。協力病院の医師が週1回往診している。かかりつけの歯科の往診もある。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に報告をして、日常的に関わって貰っている、必要に応じて受診している。	看護職に報告をして、日常的に関わって貰っている。必要に応じて受診している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退所時、サマリー記入や報告を行い安心して治療が受けられる様に、また病院関係者と情報交換、連絡を行っている。	入退所持にはサマリー記入や報告を行い、安心して治療が受けられるように病院関係者と情報交換している。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を踏まえ、医療が必要な時以外は看取りも可能な事を入所時に説明している。急変時はマニュアルに沿って同法人の病院受診、対応出来ない場合主治医の指示にて他院に転移、治療を受けて貰っている。	本人家族の意向を踏まえ、医療が必要な時以外は看取りも可能な事を入所時に説明している。急変時はマニュアルに沿って同法人の病院を受診、対応できない場合主治医の指示で他院に転移している。	管理者は看護師でもあり、基本的には事業所で看取りをしている。身体的に重度になった時の入浴は、併設の病院で機械浴対応が出来る。また、医療的処置が必要になった時は、病院に受け入れてもらう様に家族の意向を聞きながら対応している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、マニュアルを作成、院内外の研修に参加している。キャリアパス勉強会にて消防署に行きAED、救急法の勉強を受ける。	急変や事故発生時に備え、マニュアルを作成している。院内外の研修に参加したり、キャリアパス勉強会にて消防署に行き救急法とAED使用の講習を受けている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の避難訓練実施し、入所者が避難出来る方法を職員が身につける努力をしている。地域の防災訓練に参加、夜間を想定してマニュアル作成、実施。運営推進会議でも災害対策を課題に出し意見を頂いている。	月1回避難訓練を実施し、入所者様が避難できる方法を職員が身につける努力をしている。地域の防災訓練に参加している。夜間を想定しての避難訓練マニュアルを作成し実施している。	避難訓練は、毎月1回避難経路の確認もしながら実践している。法人全体で防災訓練を年2回行い、夜間想定も行っている。地域の訓練にも年1回利用者・職員が参加している。備蓄品の用意もある。家族が心配されている水害・雪害を検討中。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重して、本人の誇りやプライバシーを損ねない様、言葉使い、口調には注意し対応している。スピーチロックの自己評価を毎日行い毎月のカンファレンスで話し合っている。	一人ひとりの人格を尊重して、本人の誇りやプライバシーを損ねないよう言葉使いや口調には注意して対応している。スピーチロックの自己評価を毎日行い、毎月のカンファレンスで話し合いを行っている。	個人ファイルなどの書類は、事務所で保管している。職員は、個人情報については理解をしている。排泄時や入浴時は、一人ひとりの誇りを尊重し取り組んでいる。職員は、毎日の自己評価において自分のケアの振り返りをし、次のケアに活かしている。

自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ユニット名(あずさ1階) 意図的な声かけ、話しかけを行いコミュニケーション、信頼関係作りに努め、本人の思いや希望が表出出来る様に努めている。	ユニット名(あずさ2階) 声かけを行いコミュニケーションを図り信頼関係作りに努め、本人の希望が表出出来るように努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の出来ることは出来る限り行って頂き、本人の声を常に聴き、本人のペースに合わせた生活を送って頂いている。	本人の出来ることは行って頂き、本人の声を常に聴き、本人のペースに合わせた生活を送って頂いている。	
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	自分で選べられる方には本人に任せている。出来ない方はスタッフがお世話し支援している。洗面、整髪、歯磨きも声かけ、見守りを行い、出来ない方は介助をしている。	身だしなみやおしやれは、ご自分で選べられる方は本人に任せている。出来ない方には、職員がお世話し支援している。洗面、整髪、歯磨き、髭剃りも声かけ見守りを行い出来ない方は介助している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりの参加、野菜の皮むき、野菜切り出来る方には参加してもらっている。片付け、下膳の出来る方には行って頂いている。	利用者様より食べたい物を聞き、献立づくりをしている。食事前のテーブル拭きや片付けは、出来る方に働きかけて行って頂いている。	野菜切り、皮むき、配膳、片付け等利用者も共に行っている。家族からの野菜の差し入れがあり、季節感が味わえる献立となっている。正月等は、黒豆やなます等の家庭料理を持参する家族もいる。年2回ドライブを兼ねた外食の機会もある。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所時好き嫌いを聴き食事量、水分量が1日通り摂取出来る様支援している。入居者によりその人に合わせた食事形態にして提供している。食事量を常時記録したり、食事量が減ってきたりした場合チェック表をにつけて食事量の確認している。	食事量や形態を一人ひとりに合わせて提供している。水分量も1日を通し接種出来るよう支援している。食事量が減ってきた場合、チェック表に記入して食事量を管理し支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の歯磨きの声かけ、見守りを行い口の中の汚れや臭いが生じない様支援している。出来ない方は職員が介助をしている。義歯の方は毎日ブラッシング、週1のポリドント洗浄を行っている。	朝夕の歯磨きの声かけ見守りを行い、口の中の汚れや臭いが生じないよう支援している。義歯は毎日ブラッシング週1回洗浄剤を使用している。出来ない方には、職員が口腔ケア介助している。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄に心がけ失禁、立ち上がりの悪い方は時間誘導、声かけを行い自立に向けた支援を行っている。排泄パターンを把握しトイレ誘導をしている。	トイレでの排泄に心がけ、失禁のある場合は時間誘導し声かけを行い自立に向けた支援を行っている。排泄チェック表に記入して排泄パターンを把握しトイレ誘導をしている。	個人ファイルの生活援助記録を元に利用者にあったトイレの声掛けをしている。本人が拒否した時は無理にしない。パット使用者で自分で交換する利用者には、捨てる場所の声掛けをさりげなく行う等排泄の自立に向けた支援を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量に配慮し、排便がない場合には日にちを確認して医師の処方した下剤を投与、それでもない場合看護師により摘便、洗腸を行っている。	食事量や水分量に配慮し、排便がない場合は日にちを確認し医師より処方された下剤を投与。それでも出ない場合は看護師により摘便洗腸を行っている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2から3回個人の体調を考慮して入浴をされている。2人介助にて入浴している方もいる。	週2回から4回体調を考慮し入浴されている。併設した病院内の機械浴に、週2回入浴されている方もいる。	基本的には、毎日午後入浴できる。拒否する利用者には、時間を変えたり対応する職員を変え工夫している。アレルギーのある利用者には特別のシャンプーで対応している。重度の利用者が居るので、入浴困難になった時は併設の施設の器械浴の対応を考えている。

自己	外部	項目	外部評価			
			ユニット名(あずさ1階)	ユニット名(あずさ2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間照明、騒音などに注意し安心して眠れるように支援している。また日中は個々にあった休息が取れる様に、また出来ない方には状況に応じてスタッフが支援している。	日中は個々にあった休息をして頂いている。夜間は、夜間照明・騒音に注意し安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している内服について、お薬手帳を確認している。	服用している内服については、お薬手帳を確認している。また薬の変更等あった場合は、申し送りノートに記入したり口頭伝承したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力にあった役割を行って頂き、達成感を持って頂けるように支援している。	一人ひとりの力にあった役割を行って頂いて達成感を持って頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴をレクリエーションで行い普段行かない場所に行事で出掛けたり家族と出掛けたりしており、外出できる様支援している。週1回の食材購入時は順番にスタッフと出掛けている。地域行事に参加され戸外で地域の方と交流している。	散歩・外気浴をレクリエーションで行い、普段行かない場所には行事で皆と一緒に出掛けたり家族と外出されたりで、外出出来るよう支援している。また週1回の食材購入時は順番に職員と一緒に出掛けたり、地域行事にも参加している。	食材の買い物、月1回の避難訓練の際、外に出るので、そのままレクリエーションをして楽しむ。季節ごとにドライブに出かけている。出かけられなかった利用者には、お寿司等のお土産を買ってくる心遣いをしている。	事業所内が最適な環境でも、建て物の内と外の空気は違います。人は、外の空気や自然に触れる事でも落ち着きます。利用者が重度化してきて大変ですが、広い庭があるので日常的な外出の機会を少しでも増やしていく事を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理出来る方には、自分で管理して貰っている、以外の方はお小遣い程度を預かって、必要時渡している。お小遣い手帳に記入し管理している。	お小遣い程度を預かり、本人が必要な時に渡しお小遣い帳に記入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの申し出により、自宅に電話している。また手紙が書ける方には書いて頂き、投函が出来れば投函して頂いている。	本人の申し出により自宅へ電話している。本人用の電話を、本人管理のもと所持使用して頂いている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感を取り入れた歌、絵、塗り絵などを貼り、植木、生花を置いたり、飾ったりしている。不快や混乱をまねくような刺激物がある場合は速やかに取り除き居心地良く過ごす事が出来る様、工夫、調整している。	生活感、季節感を取り入れた歌・絵・塗り絵等を貼ったり植木鉢を置いたり花を飾ったりして居心地よく過ごせるよう工夫している。	共用の空間は、広く明るくてテーブル・ソファが置いてあり、テレビを見ながらくつろげる場所となっている。廊下の所どころにも休めるようにソファが置いてある。トイレは車イス用と一般用があり使いやすくなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にテレビ、テーブル、椅子、ソファを置き思い思いに過ごされる様な居場所作りを心掛けている。	共有空間にテレビ・テーブル・椅子・ソファ等を置き、思い思いに過ごすことが出来るような居場所作りを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、家族に慣れ親しんだ家具や寝具、衣類などを持ち込んでくれる様に伝えている。	入所時に、家族に慣れ親しんだ家具や寝具を持ち込んでくれるよう伝えている。	ベッド・洗面台が備え付けてあり、ベッドの下の引き出しは小物を収納できるようになっている。家族の写真も飾られて家庭的な雰囲気である。広い部屋は、整理ダンスできれいに収納されて暮らした場を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が出来ることは、行って頂き、身体機能を維持し、安全で自立した生活が送れる様に努めている。	本人の出来ることは行って頂き、身体機能を維持し安全な生活が送れるよう努めている。		